

子どもの視点から考えるつまずきを生かす授業づくり

— 小学校算数科に焦点をあてて —

学籍番号 199319

氏名 佐々木 優

主指導教員 吉田 茂孝

1. 研究の背景と目的、方法

授業において、子どもが問題を解いて答え合わせをするときに、ノートに書いた自分の考えがまちがっていた場合、正しい答えに書き直して、つまずきを隠そうとしている子どもが見られる。一方で、「いかにして、つまずかないようにするか」といったつまずきを未然に防止する指導をしている教師も見られる。これらのことから、子どもや教師にとって、つまずくことは「恥ずかしい」「良くない」といった認識があるのではないだろうか。このような背景に対して、子どもの視点からつまずきを生かす授業を実践することで、つまずきを学習や成長のきっかけとして捉え、肯定的に見ることが議論されている。しかし、特別支援教育の視点からつまずきを未然に防止する授業が行われていたり、学習塾などで学校よりも先に学習している子どもはつまずかなかったりするため、授業でのつまずきが子どもにとって「考えてみたい」「調べてみたい」といったものとして捉えることができていない。

以上のことから、本研究では、今日、授業においてつまずきをどのように生かすのかについて、明らかにすることを目的とする。また、本研究の方法としては、まず、先行研究を整理・分析し、つまずきを生かす授業についての理論的な枠組みを明らかにする。次に、学校実習において、つまずきを生かす授業を実践し、分析する。

2. つまずきの理論的枠組み

教育学において注目されている東井義雄や斎藤喜博のつまずきを生かす授業実践は、授業において考え方や生活背景を含めた子どもの論理からつまずきを生かしている（東井1959、斎藤1960）。また、算数教育の片桐重男はつまずきの原因を分析し、つまずきを生かすことを主張している（片桐1982）。このように、教育学と同様に算数教育においても、つまずきを生かす授業が評価されている。

特別支援教育の視点からは、事前につまずきを予想し、つまずかせない対応を考えることや、つまずきを分析し、つまずいた後に適切な対応をすることについて言及されている（吉田ほか2003、桂ほか2016、熊谷ほか2018）。

以上のことをふまえて検討することで、今日、授業においてつまずきを未然に防止し、子どもの視点からつまずきを生かす授業を実践する必要性が導かれた。

3. 授業実践

基本学校実習Ⅱでは、筆者が独自に作成した、答えだけではなく解き方の過程も記述する宿題プリントを用いてつまずきを事前に予想し、つまずきを生かすことを目指した授業を実践した。その結果、問題文を読んで問題場面をイメージすることができないといった本時のねらいとは異なる算数科特有のつまずきが導かれた。

発展課題実習Ⅰでは、問題文を読んで問題場面をイメージすることができないといったつまずきを想定し、それを乗り越えるための適切な教材開発を目指した授業を実践した。その結果、子どもの興味・関心をひくことはできたが、本時のねらいを十分に達成することはできなかった。また、つまずかせないことを意識しすぎたために、子どもの思考を深めることが課題として浮かび上がった。

発展課題実習Ⅱでは、つまずきを生かすことで本時のねらいを達成し、子どもの思考を深めるために、授業において学級全員で検討するつまずきが子どもの間いたいつまずきになることを目指した授業を実践した。なお、授業実践において、同じ教材及び指導案を用いて、筆者（教職大学院生）と現職教員（実習学級の先生）との比較・分析を行った。その結果、現職教員の優れた点として、つまずきを検討する場面に至るまでの授業過程が導かれた。例えば、計算の仕方について、①算数ブロックを使って考える、②言葉で説明する、③式で説明する、といった3段階に分けて授業を展開し、つまずきが子どもの間いたいつまずきになるようにしていた。筆者と現職教員との比較・分析から、①つまずきが子どもにとって「考えてみたい」「調べてみたい」つまずきになること、②「何が、どこまでわかっているのか」といった子どもの思考過程を整理し、子どもの視点からつまずきを生かすこと、③つまずきを検討することで、つまずきをくり返さないように理解を深めること、が明らかになった。

4. 研究の成果と今後の課題

本研究の成果として、①つまずきを未然に防止しながらつまずきを生かすこと、②「何が、どこまでわかっているのか」といった子どもの思考過程を整理した上でつまずきを生かすこと、③つまずきが子どもの間いたいつまずきになるようにすること、が導かれた。また、今後の課題として、①より一層学級全員の視点に立ってつまずきを生かすこと、②授業展開のなかで、子どものつまずきの原因を刻々に分析し授業をつくり変えること、を提起した。

参考・引用文献

片桐重男編著『つまずきを生かす指導』明治図書、1982年。/桂聖ほか編著『授業のユニバーサルデザイン Vol. 8』東洋館出版社、2016年。/熊谷恵子ほか『通常学級で役立つ算数障害の理解と指導法』学研教育みらい、2018年。/斎藤喜博『授業入門』国土社、1960年。/東井義雄『学習のつまずきと学力』明治図書、1959年。/吉田昌義ほか編著『つまずきのある子の学習支援と学級経営』東洋館出版社、2003年。